

# 東アジア共同体構築に係る我が国の考え方

平成18年11月

## 首脳レベルでのコミットメント

- 小泉総理シンガポールスピーチ(02年):「共に歩み共に進む」共同体の構築、及び地域の安定と繁栄を確保するために広範な分野で協力を進めるべきことを提唱。
- 日ASEAN特別首脳会議東京宣言(03年)等: 将来の東アジア共同体構築へのコミットメントを表明。
- 第59回国連総会一般討論演説(04年): ASEAN+3の基礎の上に立って、「東アジア共同体」構想を提唱。
- 第162国会施政方針演説(05年): 多様性を包み込みながら経済的繁栄を共有する、開かれた「東アジア共同体」の構築に積極的な役割を果たしていく決意を表明。

## 基本的立場

立場①

➢ 「開かれた地域主義」の原則に基づく。

- 東アジアでは、ASEAN、日中韓に加え、豪州、NZ、インド、さらには米国等が各種機能的協力で重要な役割を果たしている。
- 開放性・透明性・包含性を確保し、これら幅広いパートナーと緊密な協力を確保。

立場②

➢ 機能的協力促進が中心(「機能的アプローチ」)。

- 地域の多様性(経済発展水準、文化、民族、宗教、政治理念、安保政策等)に鑑みれば、EUのような政治的な制度や枠組みの導入は未だ将来的目標。
- 当面は、広汎な分野で機能的協力(FTA/EPA、金融、国境を越える問題等)を推進することを中心に共同体形成を目指す。

立場③

➢ 普遍的価値の尊重、グローバルなルール遵守。

- 民主主義、自由、人権等の普遍的価値、WTO等のグローバルなルールを重視する。

第一回東アジア首脳会議(EAS)の成果は、日本の主張のかなりの部分を反映。

- ① 首脳宣言に 開放性・透明性・包含性や普遍的価値の強化などの原則が盛り込まれた。
- ② EAS16ヶ国による具体的協力進展の契機となりうる鳥インフルエンザ対策宣言を発出。